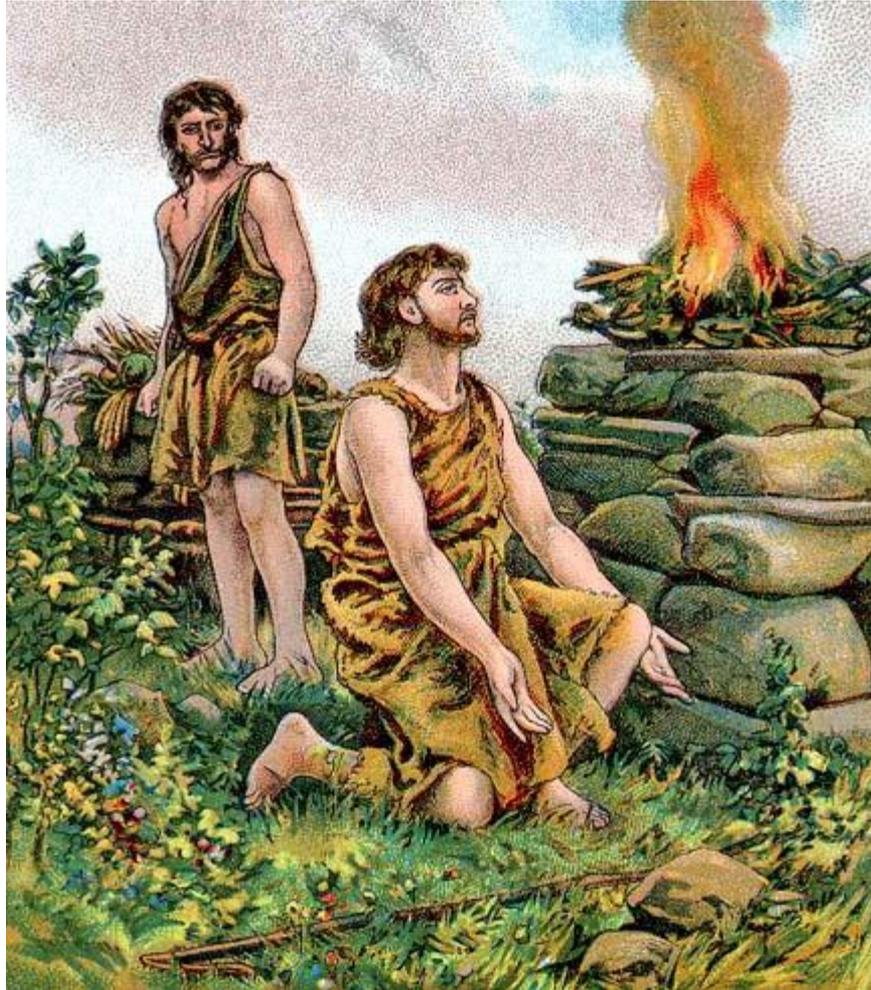


# 天界の秘義 第四章



4:1 人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、主によってひとりの男子を得た。」と言った。 @カイン:愛から分離した信仰の教義

4:2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。 @アベル:仁愛、隣人への愛

4:3 ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。

4:4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、それも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。

4:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。

それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。 @分離した信仰を持つ者の状態が悪化

4:6 そこで、主は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。

4:7 あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」@仁愛の位置づけから信仰の性格がわかる。信仰が主要なものとされ、仁愛の上に上げられない限り、仁愛は信仰とともにいたがる。

4:8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。

4:9 主はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないですか。」@分離した信仰のもとで、信仰が仁愛よりも大切にされ、仁愛が消滅

4:10 そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。@消滅した仁愛は「血の声」と呼ばれる。

4:11 今や、あなたはその土地にのろわれている。@歪曲された教義  
その土地は口を開いてあなたの手から、あなたの弟の血を受けた。

4:12 それで、あなたがその土地を耕しても、土地はもはや、あなたのためにその力を生じない。あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となるのだ。」@偽りと悪が発生する

4:13 カインは主に申し上げた。「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。

4:14 ああ、あなたはきょう私をこの土地から追い出されたので、私はあなたの御顔から隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人とならなければなりません。それで、私に出会う者はだれでも、私を殺すでしょう。」@主から目を背けられたため、永遠の死の危険に

4:15 主は彼に仰せられた。「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」そこで主は、彼に出会う者が、だれも彼を殺すことのないように、カインに一つのしるしを下さった。@信仰を通して仁愛が植え付けるので、信仰は汚されない。

4:16 それで、カインは、主の前から去って、エデンの東、ノデの地に住みついた。@従来の位置からの排除

4:17 さて、カインは、その妻を知った。彼女はみごもり、**エノク**を産んだ。カインは町を建てていたのので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。@異端の増大

4:18 エノクにはイラデが生まれた。イラデにはメフヤエルが生まれ、メフヤエルにはメトシャエルが生まれ、メトシャエルには**レメク**(@信仰のかけらさえ残らず)が生まれた。

4:19 レメクはふたりの妻をめぐらした。ひとりの名は**アダ**、他のひとりの名は**ツイラ**であった。

### @新しい教会の誕生

4:20 アダはヤバル@教会の天的な事柄 を産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。

4:21 その弟の名はユバル@霊的な事柄 であった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。

4:22 ツィラもまた、トバル・カイン@自然的な事柄 を産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。トバル・カインの妹は、ナアマであった。

4:23 さて、レメクはその妻たちに言った。「アダとツイラよ。私の声を聞け。レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。私の受けた傷のためには、ひとりの人を、私の受けた打ち傷のためには、ひとりの若者を殺した。

4:24 カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。」@信仰と仁愛のすべてが消滅、最後の段階までの神聖冒とく

4:25 アダムは、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子を**セツ**@仁愛が植え付けられる信仰 と名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから。」

4:26 セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子を**エノシュ**@仁愛が植え付けられた信仰:人間

と名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。

338

4:1 人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、ひとりの男、エホバを得た。」と言った。

最古代教会から生まれた長子は信仰であった。名はカインと呼ばれる。カインと呼ばれる信仰が、それ自体のものとして認められた。

340

最初彼らは信仰とは何か知らなかった。信仰のすべてを直観していたから。信仰の教義を新たに造り出し、直観によって得たものを、教義として単純化していった。そして何か新しいものを見つけたかのように、「私は、主によってひとりの男子を得た。」と言った。

心の上に書き付けられていたはずのものが、単なる知識となっていた。

341

4:2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。

教会の第二の子孫が仁愛:アベル

群れの羊飼:仁愛の善を行う者

土を耕す者:仁愛を欠く者

342

教会が身ごもり、産み出すのは、信仰と仁愛だけ。

ルベン:信仰 シメオン:信仰の実践 レビ:仁愛

343

教え導く者:羊飼

群れ:学び導かれる者

群れを集める←→群れを散らす

集め、結びつけるのは、仁愛による

散らすのは、仁愛の欠如による

345 「土を耕す者」 仁愛を欠如した者 愛から離れた信仰(実は信仰ではない)にいる。

物質的・地的なものを見る

創3:19,23「地を耕すために、エデンの園から投げ出した」

346

4:3 ~~ある時期になって~~( \* 日々の終わりに \* )、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。

日々の終わり:時間の経過

土地の作物:仁愛を欠いた信仰の業

主への捧げ物:そこから派生した礼拝

347 当初カインと呼ばれた教義はさほど受け入れがたいものではなかった。  
「日々の終わり」に至ると異なる

348 「地の作物」:仁愛の欠如した信仰の行為

→信仰とはいえない、死んでいる、単に外部人間に属している

これに反し、「仁愛の行い」は生きていいる。

エレ37:31 ユダの家ののがれて残った者は下に根を張り、上に実を結ぶ(仁愛から行う)

349 捧げ物:礼拝

4:4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、その脂肪をそれも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。

有機栄養素のうち糖質(炭水化物)、たんぱく質、脂肪は、多くの生物種で栄養素であり、「三大栄養素」とも呼ばれている。

350 アベル:仁愛

群れの初子:聖・主お一人のもの

脂肪:天的なもの、主に属する

主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた:仁愛に基づく礼拝は主を歡ばす。

351 隣人への愛と憐れみ 隣人を自分のように愛する者は、隣人が苦しむとき、自分のことのように同情する。

352 群れの初子:主お一人に属するもの

愛とそこから生まれた信仰は初子。

あらゆる愛は主のものであり、ごく最小のものでも人のものではない。

それゆえ主おひとりのみが初子となる。

353 脂肪:天的なもの自体、これもまた主のもの 天的なものとは愛に属するもの

肝臓を覆う脂肪、羊膜を覆う脂肪、腎臓の上の脂肪、腸を覆う脂肪、腸の上の脂肪

これらは聖なるものであり、祭壇の上で焼かれた。

レビ

3:16 祭司は祭壇の上でそれを食物として、火によるささげ物、なだめのかおりとして、焼いて煙にきなさい。脂肪は全部、主のものである。

3:17 あなたがたは脂肪も血もいっさい食べてはならない。あなたがたが、どんな場所に住んでも、代々守るべき永遠のおきてはこうである。

353-2 脂肪は天的なもの、そして仁愛の善を意味する。

イザ55:2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならない物のために金を払い、腹を満たさない物のために労するのか。わたしに聞き従い、良い物を食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づこう。

エレ31:14 また祭司のたましいを髓脂肪で飽かせ、わたしの民は、わたしの恵みに満ち足りる。――主の御告げ。――

詩編36:8 彼らはあなたの家の豊かさ脂肪を心ゆくまで飲むでしょうで満足するでしょう。あなたの楽しみの流れを、あなたは彼らに飲ませなさいます。

36:9 いのちの泉はあなたにあり、私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。

63:5 私のたましいが脂肪と髓に満ち足りるかのように、私のくちびるは喜びにあふれて賛美します。

申命32:14 牛の凝乳と、羊の乳とを、~~最良の子羊~~と雄羊の脂肪とともに、バシヤンのものである雄羊と、雄やぎとを、小麦の脂肪と腎臓~~最も良いもの~~とともに、食べさせた。まざりけのないあわ立つぶどうの血をあなたは飲んでいた。

4:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。

それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。@分離した信仰を持つ者の状態が悪化

カイン: 愛から分離した信仰、この分離の可能性を認める教義→主には受け入れられない

怒り: 仁愛が離れた

顔: 内部 伏せた: 変化した

357

怒りは、自分の愛や欲望に反したときにもたらされる感情。

詩編 78:49 神は、彼らの上に、燃える怒りと激しい怒り、憤りと苦しみ、それに、わざわいの御使いの群れを送られた。

78:50 神は御怒りのために道をならし、彼らのたましいに死を免れさせず、彼らのいのちを疫病に渡された。

怒りは、悪であり、仁愛との別離。

358 「顔を伏せた」

顔: 内的事柄 内的な事柄は顔から輝き出す。

最古代のころは内的な事柄と顔は完全に一致。

見せかけやごまかし→嫌悪すべきこと

顔を上げる: 仁愛が顔から輝き出る

顔を伏せる: 逆

## 民数記

6:24 『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

6:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

6:26 主が御顔をあなたに向け上げ、あなたに平安を与えられますように。』

わたしはあなたがたをしからない。わたしは恵み深いから。エレミア3:12  
に顔を伏せない。

エホバの顔＝慈しみ

4:6 そこで、主エホバは、カインに仰せられた。

良心が語る。

「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。」

仁愛は離れ、状態は変化した。

361

4:7 あなたが正しく行なったのであれば、~~受け入れられる~~ 顔は上げられる。  
ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。~~求めている。~~  
~~だが、あなたは、それを治めるべきである。」~~

=もし、あなたの望みが正しいのであれば、仁愛を持つ。  
正しくないのであれば、仁愛ではなく、悪を持つ。  
仁愛を持つべきであるが、それができない。  
なぜならあなたは仁愛を支配しようとしているから。

362

カインと呼ばれた信仰の教義も、信仰は愛から分かれようとしているが、愛の子孫である仁愛からも分離した。

教会あるところに必ず異端が生じる。

なぜなら、信仰のどこかある部分が重要であるとするため

→これは人間の思考の習性

特に、自己愛と世間愛が本人を増長させ、それが自分の発見したことであるとする妄想がわきあがって、何かを優先させようとするればそうなる。

そのためカインと呼ばれるものは、愛より信仰が重要だとした。愛なしに生きてゆくに応じて、自己愛とそこから発した妄想はさらに同調させた。

363

仁愛は信仰と結びつくことはできたはずだが、それは信仰ではなく仁愛が支配するならそれが可能であった。

善いことをするなら、(善を望むなら、)仁愛は存在した。

364

善いことを望まないなら、仁愛は存在できず、悪が存在する。

仁愛がないとき、罪＝悪魔＝地獄の集団(無慈悲・嫌悪他すべての悪)が戸口から入ろうとしている。

心の戸口からやってくる悪魔を追い払うことができるのは、主と隣人に対する愛だけ。

365

仁愛は信仰とともに居たかったが、信仰が仁愛を支配しようとして秩序に反したためできなかった。信仰が支配しようとする限り、それは信仰ではなくなる。信仰の要点が仁愛であるから。

仁愛:熱と光の源である炎

仁愛から離れた信仰:熱のない光

366

4:8 しかし、カインは弟兄弟であるアベルに話しかけた。  
「野に行こうではないか。」

そして、ふたりが野にいたとき、(教義にあって)カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。(仁愛を消滅させた)

エサウ と ヤコブ  
ペレツ と ゼラフ  
エフライム と マナセ

アモス1:9 主はこう仰せられる。「ツロの犯した三つのそむきの罪、四つのそむきの罪のために、わたしはその刑罰を取り消さない。彼らがすべての者を捕囚の民として、エドムに引き渡し、兄弟の契りを覚えていなかったからだ。

369 信仰の教義には、仁愛と信仰が共にいる。しかし愛から分離した信仰は仁愛を無視して消し去ってしまう。

口先では、愛がなければ信仰は救わない、というが・・・

370

4:9 エホバはカインに語られた。**直観力**「あなたの弟**兄弟**アベルは、どこにいるのか。」  
カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないですか。」

信仰が大事で、仁愛は意味がないという教義が誕生。  
もはや信仰は仁愛に従属することをよしとしない。

371

直観力は愛が主要とされている限り保持される。  
この直観力は最古代教会に特有のもの  
洪水後の古代教会:仁愛は信仰を通じて与えられ、直観力ではなく良心が与えられた。

これは啓示された事柄そして、み言葉の認識から良心が形成されたときも、そのときも「エホバが語られる」と表現される。

372 番人:門番として奉仕する  
信仰は仁愛の番人と呼ばれる

4:10 そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が(仁愛への暴行)、その土地(分離・異端)からわたしに叫んで(罪の責め)いる。

374 血: 罪、特に憎悪 憎悪は殺人と同じ

マタイ

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会議場に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

憎悪は仁愛の真逆 手では殺さなくとも心は殺す。すべての憎悪は「血」とされる。

エレミヤ2:33 あなたが愛を求める方法は、なんと巧みなことか。それであなたは、悪い女にも、自分の方法を巧みに教えたのだ。

2:34 あなたのすそには、罪のない貧しい人たちの、いのちの血が見える。彼らの押し入るのを、あなたが見つけたわけでもないのに。しかも、これらのことがあるにもかかわらず、

2:35 あなたは『私には罪がない。確かに、御怒りは私から去った。』と言っている。『私は罪を犯さなかった。』と言うから、今、わたしはあなたをさばく。

374-2

## 憎悪はあらゆる罪の源

ホセア

4:2 ただ、のろいと、欺きと、人殺しと、盗みと、姦通がはびこり、流血に流血が続いている。

4:3 それゆえ、この地は喪に服し、ここに住む者はみな、野の獣、空の鳥とともに打ちしおれ、海の魚さえも絶え果てる。

377

土地

人は蒔かれた種によって人となる  
善と真理が蒔かれたら、善と真理の人  
悪と偽りが蒔かれたら、悪人・偽りの人

畑：教義

土地：分離・異端



378

4:11 今や、あなたはその土地にのろわれている。分離によって善から転じる  
その土地は口を開いて 異端が教える  
あなたの手から、あなたの弟の血を受けた。 仁愛に暴行を加え、消滅させた。

380

4:12 それで、あなたがその土地を耕しても、分離・異端を耕す  
土地はもはや、あなたのためにその力を生じない。不毛  
あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となるのだ。」善で真であることを知ることがない

382 哀歌

4:13 これはその預言者たち教える者の罪、  
祭司たち教えに従い生きる者の咎のためである。彼らとその町のただ中で、正しい人の  
血を流したからだ。  
4:14 彼らは血に汚れ、盲人のようにちまたをさまよい、真であることを善であることを知ること  
がない だれも彼らの着物に触れようとしなかった。

4:13 カインは主に申し上げた。内的苦痛を伴った自分が悪にいるという告白  
何らかの善が残っていた

「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。絶望

4:14 ああ、あなたはきょう私をこの土地(教会)から追い出されたので、教会のあらゆる真理から分離してしまったので

私はあなたの御顔(慈しみ)から隠れ、愛の信仰の善のすべてから分離  
地上をさまよい歩くさすらい人とならなければなりません。真理と善を知ることがない  
それで、私に出会う者はだれでも、私を殺すでしょう。」あらゆる悪と偽りが彼を滅ぼす

389 人が仁愛を奪われたとき、人は主から分離してしまう。なぜなら隣人へ思いやりと慈しみのみが人と主を結びつけるから。

仁愛なくなれば、分離があり、分離すれば、彼のもと、プロプリウムだけとなる。すると彼の考えることはすべて偽りであり、意志することはすべて悪となる。生命が残らない。

390 悪と偽りにいる者は、殺されるという恐怖に常にいる。誰も守ってくれず、すべてが互いを殺そうとしている。

レビ記26:33 わたしはあなたがたを国々の間に散らし、剣を抜いてあなたがたのあとを追おう。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。

26:36 あなたがたのうちで生き残る者にも、彼らが敵の国にいる間、彼らの心の中におくびょうを送り込む。吹き散らされる木の葉の音にさえ彼らは追い立てられ、剣からのがれる者のように逃げ、追いかける者もないのに倒れる。

26:37 追いかける者もないのに、剣からのがれるように折り重なって、つまずき倒れる。<sup>49</sup>あなたがたは敵の前に立つこともできない。

391 悪霊は互いに罰し苛むことに最大の喜びを感じている。

その原因が悪と偽り自体にある。

他人に望むことは自分自身に返ってくる

偽りは自らの内に偽りの罰を宿し、悪は自らの内に悪の罰を宿している。

392

4:15 エホバは彼に仰せられた。

「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」たとえ分離してしまった信仰であってもこれに暴行を加えるなら神聖を汚すことになる。

そこで主は、彼に出会う者が、だれも彼を殺すことのないように、カインに一つのしるしを下さった。信仰が守られるように、信仰がある特定の方法で識別できるようにされた。

395

七 → 荒廃への七段階 バビロン捕囚 七人の天使 七つの厄災

最古代教会:愛に関する以外、信仰は存在せず、信仰を口にするこすら歡ばなかつた。主からの愛を通して、信仰に関するこを感知していた。天的天使

主への愛から分離

信仰の知識を通して、人は主から仁愛を得るよになつた。まず思考と傾聴が先にきて、思考と傾聴によつて、仁愛、隣人への愛と慈しみが主から与えられるよになつた。靈的天使

感知力の代わりに良心が与えられた。良心は信仰を通して得、仁愛と結びつく。聞いて真であるというより、これは真であると言われて、あるいは主がみことばでおっしゃつたから真だと示唆されるというものです。それは洪水後の教会、主の来臨後の原始、初期教会で主流となります。これが天的天使と靈的天使の差。

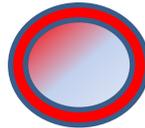
394 宦官:天界的結婚

マタイ19:12 というのは、母の胎内から、そのよに生まれついた宦官がいます。天的天使

また、人から宦官にさせられた者もいます。靈的天使

また、天の御国のために、自分から宦官になつた者もいます。天使的靈:仁愛より服従から

それができる者はそれを受け入れなさい。」



397

4:16 それで、カインは、主の前から去って、真理と善の外側にエデン(愛)の東(主)、以前は愛が支配した、知的な心のそばにノデの地に住みついた。

398

ノデ:放浪と逃亡 善と真理の剥奪

最古代教会 意志と知性は一つ 意志がすべて 知性は意志のもの

愛がすべて 信仰は愛のもの

カイン 意志の代わりに知性が統治 愛の代わりに信仰が

4:17 さて、カインは、その妻を知った。彼女はみごもり、**エノク**を産んだ。カインは町を建てていたのので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。@異端の増大

4:18 エノクにはイラデが生まれた。イラデにはメフヤエルが生まれ、メフヤエルにはメトシャエルが生まれ、メトシャエルには**レメク**(@信仰のかけらさえ残らず)が生まれた。

4:19 レメクはふたりの妻をめぐらした。ひとりの名は**アダ**、他のひとりの名は**ツイラ**であった。

### @新しい教会の誕生

4:20 アダはヤバル@教会の天的な事柄 を産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。

4:21 その弟の名はユバル@霊的な事柄 であった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。

4:22 ツイラもまた、トバル・カイン@自然的な事柄 を産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。トバル・カインの妹は、ナアマであった。

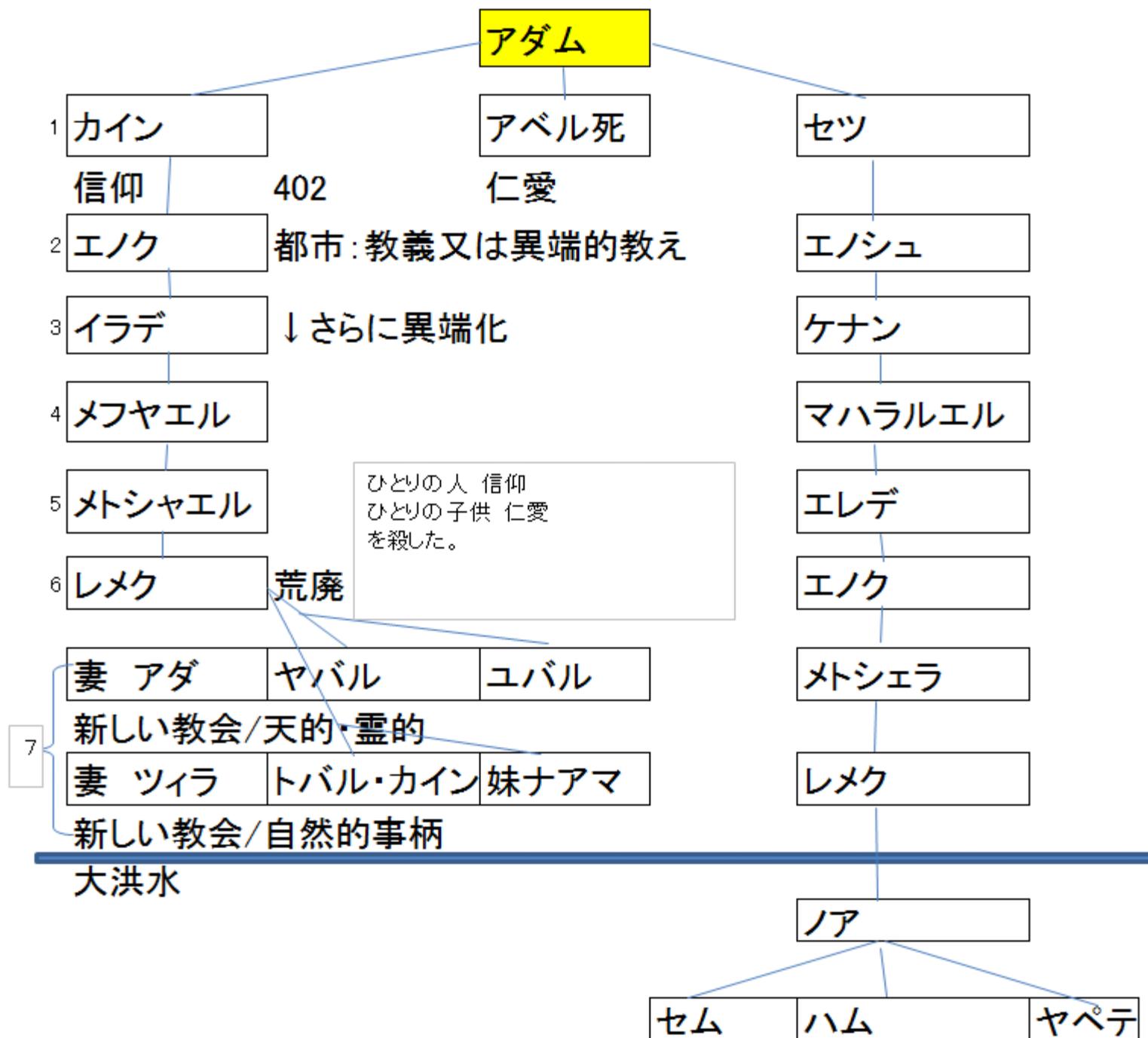
4:23 さて、レメクはその妻たちに言った。「アダとツイラよ。私の声を聞け。レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。私の受けた傷のためには、ひとりの人を、私の受けた打ち傷のためには、ひとりの若者を殺した。

4:24 カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。」@信仰と仁愛のすべてが消滅、最後の段階までの神聖冒とく

4:25 アダムは、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子を**セツ**@仁愛が植え付けられる信仰 と名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから。」

4:26 セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子を**エノシュ**@仁愛が植え付けられた信仰:人間

と名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。



408

教会が荒廃してしまうまで新しい光、または「朝」が輝かない理由

: 信仰と仁愛に関する事柄が冒瀆と混合しないため

毒麦がある限り新しい種は育たない

認めず信じない、ただ知っているだけなら冒瀆できない

409

6番目のカインの子孫レメクの代では信仰さえ否定

アダとツィラは一つの教会（レアとラケルも同様）

内部と外部がともに一つとなっはじめて教会が形成されるが、内部と外部が別々になって  
しまうともはや偶像崇拜

この状態では、不信仰ではなく無知にいる異邦人に教会が移される

410

二種類の浄化

① 知ってはいるが、知ろうとしない: 見はいるが、見ようとはしない  
いにしえのユダヤ人 今日のキリスト教会

② 無知の結果、何も見ず、何も知らない  
異邦人 啓示されたことを冒瀆できない

411 浄化 vastation 信仰の天的事柄

荒廃 desolation // の霊的事柄 放棄

4:20 アダはヤバル@教会の天的な事柄 を産んだ。

ヤバルは天幕に住む者の父、愛の神聖  
家畜を飼う者の父となった。"とその善

414 אהל

古代では天幕tentの中で礼拝の神聖な儀式が行われた:その後冒とくによって変遷  
天幕 → 幕屋 → 神殿  
いずれも主の神的人間性を表象

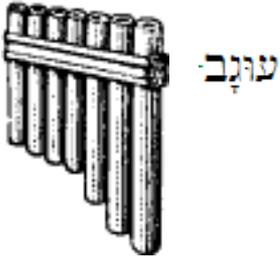
天幕では家族がともに神聖な礼拝を執行していた。  
「幕屋の祭り」

415 עֲרֹבָה

4:2アベルは群れの羊飼いとなり、仁愛の善  
ヤバルは天幕に住む者と家畜の(囲いの)父となった 愛の神聖とその善  
ヤバルは最初に天幕に住んだわけではない！

417 4:21 その弟の名はユバル@霊的な教義の事柄 であった。

彼は立琴と笛organumを巧みに奏するすべての者の先祖父となった。  
organum 機械装置 オルガン・パイプ →  
弦楽器 信仰の霊的な事柄 כנור



歌  
心の情愛は天的→そこからの歌は霊的

天使のコーラス

天的コーラス

靈的コーラス ビブラート振動の効いた歌 弦楽器に似る

419

天的事柄 愛の神聖と派生する善

靈的事柄 信仰の真理と善

信仰は真であるものを知るだけでなく、善いものを理解することでもある

信仰の真理は、両方を含んでいる

ハープ

弦楽器

靈的真理

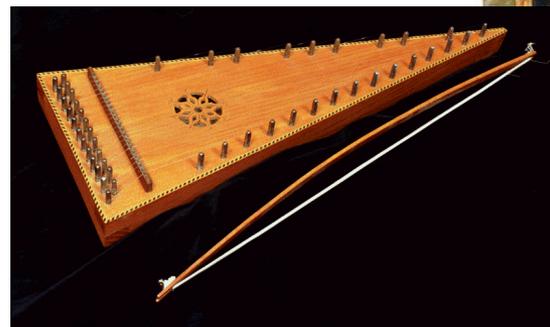
オルガンパイプ 弦楽器と管楽器の中間

靈的善

ハープcitharam や プサルテリウム nablia

靈的事柄 信仰の善と真理

トランペット 吹奏(管)楽器



421

4:22 ツィラ新教会の自然的**事柄の母**もまた、トバル・カイン@自然的な**事柄** を産んだ。  
彼は青銅**自然的善**と鉄**自然的真理**のあらゆる**用具の鍛冶屋職人の師**であった。  
トバル・カインの妹は、ナアマであった。**この教会の外部にある自然的善と真理の教義**

422ユダヤ教会 ヤコブ:外的なものを好んだため、ラケルの前に(かすみ目)レアが与えられた。

内的教会 ラケル:天的・靈的事柄 イスラエル

外的教会 レア : 自然的事柄

423 父は内的なことに関し言われ、師は外的なことに関して言われる。

אָב

רַבִּי

424 職人: 賢明・知的・博学

黙示録

18:21 また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき臼のような石を取り上げ、海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒されて、もはやなくなって消えうせてしまう。

18:22 立て琴をひく者(真理)、歌を歌う者、笛を吹く者、ラツパ(信仰の善)を鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たち(真理との記憶知)も、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。

## イザヤ

40:19 鋳物師は偶像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。

40:20 貧しい者は、奉納物として、朽ちない木を選び、巧みな細工人を捜して、動かない偶像を据える。

## エレミヤ

10:8 彼らはみなまぬけ者で愚かなことをする。むなしい神々の戒め——それは木にすぎない。

10:9 銀箔はタルシシュから、金はウファズから運ばれる。偶像は木工と金細工人の手の作。その衣は青色と紫色、これらはみな、名匠の作。

425

金 天的善

銀 靈的真理

真鍮・黄銅(銅50%以上の亜鉛との合金) 自然的善

鉄 自然的真理

## イザヤ 主の来臨 主の王国、天的教会

60:16 あなたは国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う。あなたは、わたしが、あなたを救う主、あなたを贖うヤコブの全能者であることを知る。

60:17 わたしは青銅自然的善の代わりに金天的善を運び入れ、鉄自然的真理の代わりに銀靈的真理、木肉体的善の代わりに青銅自然的善、石感覺的真理の代わりに鉄自然的真理を運び入れ、平和をあなたの管理者とし、義をあなたの監督者とする。

民数記21:9 青銅の蛇

4:23 さて、レメク@**荒廃**はその妻たちに言った。「アダとツィラよ。私の声を聞け。レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。@**告白**

私の受けた傷@**信仰**が**荒廃**のためには、ひとりの人を@**信仰を消滅**、私の受けた打ち傷@**仁愛**が**荒廃**のためには、ひとりの子若者を殺した@**仁愛を消滅**。

ひとりの子:イノセンス **天真さ**

三段階の優しい愛

乳飲み子:母・乳母

幼子 :両親 仁愛

小さな子:教師

イザヤ11:6 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。

三段階のイノセンス・愛

子羊・子ヤギ・子牛←→狼・ひょう・若獅子

小さい子:仁愛

イザヤ9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

4:24 カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。」@信仰と仁愛のすべてが消滅、最後の段階までの神聖冒とく

カイン: 信仰が消滅し、同時に信仰を通して生まれる仁愛が消滅し、断罪(七十七倍)に至った。

信仰への暴行は、神聖冒とく  
仁愛へ暴行は、さらに神聖冒とく

カインの復讐が七倍なら、レメクの復讐は七十七倍

If Cain's revenge is sevenfold, then Lamech's is seventy-sevenfold.”

マタイ18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまで@永遠に」と言います。

4:25 アダム人は、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツ@仁愛が植え付けられる信仰 と名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子種を授けられたから。」

4:26 セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュ@仁愛が植え付けられた信仰:人間

と名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。

434 アダとツイラ:新しい教会  
人と妻:親教会

アベルの代わりに別の種:仁愛

436 セツ 仁愛が生まれる新しい信仰

仁愛の無い信仰であるカインが保存されたのは、その信仰を通して主が仁愛を植え付けられるため(一つの印)

ヤバル(信仰を通して愛の神聖 と そこから生まれる善)

ユバル(信仰の霊的なもの)

トバル・カイン (自然的な善と真理)

エノシュ(信仰を通して植えつけられた仁愛)

エホバの名を呼ぶ:仁愛を信仰の第一 エノシュ:人(人間的霊的人)

エホバ=仁愛 ↔ 神 仁愛に基づかない限り主を礼拝できない

アダム אָדָם

1 カイン קַיִן

信仰 402

アベル死 הָאָבֶל

仁愛

2 セツ שֵׁת

仁愛が生まれる新しい信仰  
別の種(信仰)

2 エノク הֵנֹךְ

都市:教義又は異端的教え

3 エノシュ אֵנוֹשׁ

信仰を通して植えつけられた仁愛

3 イラデ עִירָד

さらに異端化

4 ケナン קֵנָן

エホバの名を呼ぶ:仁愛を信

4 メフヤエル מֶפְיָאֵל

מְחַוֵּאֵל

5 メトシャエル מֶתְשָׁאֵל

מֶתְשָׁאֵל

ひとりの人 信仰  
ひとりの子供 仁愛  
を殺した。

6 レメク לֶמֶךְ

לֶמֶךְ

荒廃

5 マハラルエル מַהֲרָרְאֵל

6 エレデ עִירָד

7 エノク הֵנֹךְ

8 メトシェラ מֶתְשֵׁרָא

9 レメク לֶמֶךְ

10 ノア נֹחַ

セム שֵׁם

ハム חָם

ヤペテ יָפֶת

7 妻 アダ אָדָם | ヤバル יָבָל | ユバル יוֹבָל

新しい教会/天的・靈的

7 妻 ツィラ צִירָא | トバル・カイン תּוֹבָל קַיִן | 妹ナアマ נַעֲמָה

新しい教会/自然的事柄

大洪水 הַמַּבּוּל (י) קַיִן

